

自己紹介：世田谷区長・保坂展人さん、区長室長・岩元さん、玉川支所長・工藤さん

西崎さん（元区議・元都議・生活者ネット）、高岡じゅん子さん（世田谷区議・ネット）、（以下、東京の水連絡会）遠藤、国谷、清水、都甲、嶋津、滝上、川合、深澤

遠藤：本懇談会の趣旨説明：相談内容は、東京都が昨年2021年3月に策定した「東京水道施設整備マスタープラン」で、玉川浄水場の廃止を明らかにしてきたことへの対応策。遠くの水場からの配水を受けている世田谷区民にとって、「玉川浄水場の廃止」は直下型地震等の災害の際には、大きな悪影響をもたらすのではないか。この際、玉川浄水場の敷地を世田谷区の防災拠点として位置づけ、日常的には水が流れる公園等の公共空間として、非常時には世田谷区民の防災拠点、且つ、区民に水道水を届ける浄水場（地下に設置）として開発することを提案する。

保坂：都の動きを皆さんから聞いて、相談したい。東京都は縦割り組織で、大原会館建て替え（給水所立替え）で屋上緑化を進めた時も時間がかかった。水道局は独立性があるのでなお大変では。災害時のことは区民にとって非常に重要。お聴きしたい。

国谷：画面共有（別添 pdf）で多摩川浄水場廃止問題に関する東京の水連絡会の考えを説明（別紙参照）。地方からの水収奪ではなく、水源自立を求めてきた。局側が一方的に廃止を宣言してきた。働く者としても許せない。災害に強い水道が重要。

清水：画面共有（別添 pdf）で玉川浄水場廃止までの経緯と、世田谷区が「浄水場がある防災拠点」として活用する提案について説明。水道原水としての水質基準を達成している。下水混入率が高い原水の浄水処理方法も確立している。浄水機能を持つ自立型防災拠点として活用。世田谷区は山梨県等より人口が多く、先進的な取り組みによって国全体に大きな影響を与えられる（例えば抗原検査キットの無料配布など）。

保坂：浄水場の廃止は工業用水の需要がなくなったからか、工業用水の仕組みそのものを廃止したのか？ 豊洲の関係で話を聞いた覚えがある。

国谷：玉川浄水場の水は4,800m<sup>3</sup>/日ほど工業用水の一部として三菌浄水場に送られている。同浄水場から現状3万2千m<sup>3</sup>/日送られ、そのうち半分は雑用水。今も工場や江戸川等の団地の雑用水（トイレ用）に送水されている。工場は臨海部や城東地区（メッキ、皮革）にあるが減っており、廃止に向けて取組まれている。

保坂：22年度末で工業用水廃止で上水道しか使えなくなると料金が高くなるという声は出ていないのか？

国谷：都議会でも取り上げられ、工業用水として使うには水道水の塩素を除去しなければならないので、その対策費に補助を出すとか、段階的に10年かけて、料金を上げるなどと都は答えている。

保坂：浄水場跡地の再開発プランが先行して動き出してはいないのか？ この規模の敷地なら世田谷区に相談があるはずと思うが？

工藤（玉川支所長）：そうした話は聞いていない。

保坂：情報を今聴いたので早速考え始める。世田谷区では10年かけて14haの公園を整備してきたが、その半分を占める広い敷地。多摩川周辺は避難所が少ないので使えば。高低差を利用した小水力発電もできそう。大がかりな土地の処分になる。飲み水としての浄水機能は残っているのか？一回見に行かなければならない。

**遠藤**：配水しているのは工業用水だけだが、再開に向けた技術（膜処理など）は進んでおり、実験的な膜処理の施設などが更新されている。浄水はまったく出していません。

**保坂**：水害時には合流式の下水により川の水質がかなり悪化し、内水氾濫でも下水の匂いがしたそうだが、水害時には水道水源水として使うにはイメージが悪い。

**国谷**：下水処理施設で洪水時に貯留するなどしているが、まだ不十分。他の河川でも同じ。

**清水**：玉川浄水場の沈殿池は大きいので、膜濾過で十分浄水可能。

**国谷**：都の動きはなかなか見えてこない。都は送配水ポンプ場以外は売却し、管路（私有地地下も）、取水堰も撤去の予定。

**保坂**：7haの広い土地。水害の対策としての貯留機能を持たせるのはどうか。ここ（玉川総合支所館内）多摩堤1, 2丁目はまさに水害のあったところで、ここ（玉川浄水場敷地内地下）に内水氾濫防止貯水池も作り、その上を運動公園にしてはどうか。浄水場としての機能も止めずに。

**国谷**：取水機能を止めてしまうと浄水場の再開は困難になる。

**遠藤**：発想の転換が必要。

**保坂**：これだけの広さなので、売却してテーマパークやホテル、金融センターを作る方向に持っていかれそう。住民は不安に思う。水を蓄える機能は必要で、区民にとってもありがたいこと。配管のリプレースが大変で、需要減で採算も合わないから廃止したいのだろう。こんなに広いとは知らなかった。位置関係・スケールを見るのに、区内で調整した上でまず東京都に現地を案内してもらおう。気候危機と絡めた議論をして、あまり変な事業開発計画は防ぎたい。この十年間話合ったことはない。まずは見に行く。ゲリラ豪雨対応＝防災 にかからめた議論

**都甲**：エネルギー自立型補足。世田谷区の先進的なエネルギー政策に敬意を表す。東京都の浄水場もあちこちの施設で再生可能エネルギーを利用しているので、ここでも可能では。災害時には水とエネルギーの供給ができるように。

**保坂・遠藤**：世田谷区が東京都からの情報を得た上で、今後に向けて相談していく。